

若者言葉にみられる言語変化に関する研究

堀尾, 佳以

<https://hdl.handle.net/2324/4071700>

出版情報 : Kyushu University, 2014, 博士 (芸術工学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名 : 堀尾 佳以

論文題名 : 若者言葉にみられる言語変化に関する研究
A study on language variations and changes in Japanese
new words and phrases *Wakamono*

区 分 : 乙

論 文 内 容 の 要 旨

本論文では1990年代後半から2000年代の「若者言葉」について、使用されているルールの根底にあるのは何かの解明を目指した。従来のルールでは説明がつかない斬新な用例を取り上げ、その言語変化を見ていき、品詞ごとにそれぞれの形態的・統語的・意味的特徴をまとめた。また、新しく造られた語彙や活用に見られる変化についても分析し、文法化とその過程について分析した。自然談話録音資料や文字化資料を使用する事で、1990年代後半から2000年代の「日本語」を記録し、「新しい語彙」「新しい用法」の特徴を捉え、体系を明らかにする事ができた。

本論文の目的: ①1990年代後半から2000年代にかけて確認できた「変化」を捉え、記録し、その法則性を明らかにする。②自然談話(話し言葉)を録音・文字化して残す事で、これまで気付かれず、研究対象とならなかった語彙や用法についても分析・解明する。③「新しい語彙」や「新しい活用」だけでなく従来の表現であっても、その意味や使用に変化が見られるものについて、その特徴を明らかにする。以上3点である。

「若者言葉」に見られる変化のまとめ

動詞化接辞「-る」: 外来語、擬音語・擬態語などに付けて五段動詞の活用をとり、【名詞、固有名詞のようだ・そのように行動する・固有名詞(店名)へ行く/で食べる・名詞、固有名詞の特徴を持つ】といった意味を付加する。

新しい形容詞: 活用の変化、特に派生形式の変化が見られ、従来のものと形が同じでも異なる意味を持っている。外来語を派生させた語彙からの語彙拡大と、語幹となる品詞の許容範囲拡大が見られる。

程度の副詞: 「名詞」・「名詞類」を就職する「程度の副詞」が増えた。元からある語彙を「程度の副詞」として採用する場合は、元の意味が重要であり、【漢字一文字・名詞など】が使用されている。

名詞化接辞「-さ」: イ形容詞・ナ形容詞・名詞全てにつけて名詞化する。和語・漢語どちらにも付けられ、外来語はナ形容詞を中心とする。「~さ」の持つ意味を付加させたり、名詞を名詞化することもある。

ぼかし言葉：「ぼかす」意味を持ち、その語全体がぼんやりとする。動詞にのみ、名詞にのみ、品詞を選ばないなど、付加する際のルールがある。「ぼかし言葉」自体でぼかす意味があるもの、引用部分や語彙の意味を変えるものがある。「ぼかし言葉」の有無により、その文全体のニュアンスが変わる、ということである。「ぼかし言葉」を付けることでグループ化し、その語彙に関連するカテゴリーを包括することができるようになる。また、あいまいで責任の所在があやふやとなる。

若者言葉の文法化特徴 まとめ：先行研究で「文法化」とされていたものの、変化を【脱範疇化／意味／機能】から分析した。その結果、「文法化」したものであると言えるのは「-っていうか」のみであり、「-っばい」「-くさい」「-げ」は変化がみられるものの、「文法化の未完了」の段階であると言える。

本節で取り上げた例からも「脱範疇化」と「機能」については顕著であるが、「意味の漂白」については完全な「漂白」とまでは言い切れないものもある。今後、「文法化の未完了」である変化が本当に「文法化」するのか、経過を観察する。

類推：本論文では「-的」および「-さ」について再分析を行い、類推に基づいてまとめた。まず『『的』の類推』について使用例を分析し、スキーマによる考察を行った上で、「的」は類推により使用範囲を拡大し、意味にも変化が起こっていることが分かった。また、『『-さ』の類推』再分析の結果、類推に基づいて明らかに名詞としてしか解釈できないものにも「-さ」が付けられるようになったと考えられる。

今後の課題：本研究全般の共通の課題は、【資料・調査対象・使用範囲／時期】について、より正確には【変化を捉えるために必要十分な資料か】【年齢差や性別差】【地域性と方言】に関して解決する必要がある。

今後の若者言葉の可能性：日本語は変化し続けており、今後も変わり続けていくだろう。その中でも、若者言葉がどのような要因によって、どのように作られ、どの程度残るのかは分からない。しかし、分析結果から、今後も新しい語彙が生まれる事、その新しい語彙や用法は一定のルールに沿っている事が予測できる。

Name : Kei Horio

Title : A study on language variations and changes in Japanese new words and phrases
Wakamono

区 分 : 乙

論 文 内 容 の 要 旨

The aim of this study is to examine rule of the new words and phrases that used by young people from the late 1990' s to 2000' s.

This paper approach these problems by analysing the new expressions that is unexplainable by the general rules by studying the variation and change in Japanese new phraseology and Morphological, Syntactic and Semantic features.

Furthermore, this study also analyzed the change of new words, conjugations, and grammaticalization.

This study explains thefeature of the system of new words and phrases in Japanese term from late 1990' s to 2000' s.

The purpose of the study

There are two primary aims of this study:

1. To extract the new words and phrases which have not been studied very much before. The words were extracted from natural conversation that was recorded.
2. To find rules of the new expressions about the variation and change until around 2010.